国際協同組合年を契機とした協同組合学習の実践報告

石毛昭範[*1]・石垣遥平[*2]・原木彩冬[*3]・赤崎弘洋[*4]
Email：aishige@ner.takushoku-u.ac.jp

*1：拓殖大学 商学部 准教授
*2：拓殖大学 商学部 経営学科
*3：拓殖大学 商学部 経営学科
*4：拓殖大学 政経学部 経済学科

◎Key Words 国際協同組合年，人材育成，学びと成長

1．はじめに

本報告は、2012 年の国際協同組合年を契機に、拓殖大学石毛ゼミナールで始められた、協同組合についての学習に関する実践報告である。このゼミはもともと経営学、とりわけ企業における人材活用を中心とした人的資源管理論について学ぶゼミである。拓殖大学では大学生協は設立されていないが、ゼミ担当教員が東京インターカレッジコープの理事であることもあり、記念すべき年を契機にゼミとして協同組合について学んでみようという機運が高まり、学習を始めるに至った。これまで、ゼミの農協就職内定者を中心とする学習会、「協同組合と人材育成」と題した講演会を実施、さらに拓殖大学出身の協同組合・協同組織金融機関職員を囲んだ学習会を予定している。これらの取り組みは東京インターカレッジコープなどの協同組合・協同組織金融機関の協力が欠かせなかった。本報告では、こういった取り組みの内容やその成果、今後の課題などについて報告する。

2．協同組合についての学習会の実施

まず、「協同組合」という存在そのものに馴染みのない私たちは、「協同組合」は何かを学ぶことから始めた。2012 年 11 月にゼミ生が集まり、ゼミ担当教員とゼミの農協就職内定者を講師に、協同組合とは何かについての学習会を行った。

既に経営学についてある程度学んでいる学生であったことから、ある程度知識のある一般的な「株式会社」と比較し、協同組合への理解を深めやすくした。協同組合とは、個人あるいは事業主などが共通する目的のために自主的に集まり、その事業の利用を中心としながら、民主的な運営や管理を行う、営利を目的としない組織であることを学んだ。出資者は、協同組合が組合員、株式会社は株主と呼称が異なり、根拠法や事業、運営参加者においても違いがある。運営方法においては、持ち株が多いほど議決権が強くなる株式会社とは異なり、協同組合は出資の多少に関係なく、１人１票制を採っている。この様に、多くの部分で協同組合と株式会社は違うことがわかった。運営方法などからみても明らかな通り、協同組合には、多くの人がお金を出し合って組織を作り、連帯して助け合う「相互扶助」の考えがあると理解した。

3．「協同組合と人材育成」公開講演会の開催

次に、大学生協のない拓殖大学の学生をはじめ、より多くの人に協同組合について知ってもらうために、公開講演会を企画した。国際協同組合年関係ですでに多くの行事があるなかで、石毛ゼミのオリジナリティを出すため、ゼミのテーマである「人材活用」に関する講演テーマとして「協同組合と人材育成」と題して講演会を行うこととした。

講演会の主旨は、以下のようなものである。協同組合における人材育成は、大きく分けて「役職員」に対するものと、「組合員」に対するものに分けることができる。前者は、一般の企業でも見られるいわゆる教育訓練の活動である。後者には、組合員同士で行う学習活動や、協同組合が事業として行う教育の活動がある。本講演会では、この両者の例を紹介いただき、その意義や課題などについて考えることとした。

講師には、拓殖大学生が多く加入している東京インターカレッジコープ店長の白石昌則氏と、拓殖大学から多く就職している農協の中央組織である全国農業協同組合連合会（全農）の燃料部ガス課課長（前人事部人事課）竹之内啓氏にお願いした。また、拓殖大学商学部就職委員会、東京インターカレッジコープ、日本キャリアデザイン学会

からも後援をいただくことができた。講演会に先立ち、石毛ゼミのメンバーが東京インターカレッジコープと全農に伺い、講演会の主旨をお伝えしたうえで講演内容についての打ち合わせを行った。

2012 年 12 月 4 日、拓殖大学文京キャンパスで講演会が開催された。120 名以上の聴衆（拓殖大学生約 110 名、学外約 10 名）が集まった（司会は石毛ゼミ 4 年の五頭直紀、開会挨拶は石毛ゼミ 4 年の橋本進一郎)。

４．講演会の内容（１）全農　竹之内氏

講演会では、はじめに全農の竹之内啓氏に、協同組合および国際協同組合年の意義について、資料をもとにお話しいただいた（参考文献(1)(2)(3)）。そのうえで農協、とりわけ全農においての人材育成方針について講演いただいた。

まず、全農で育成される人材像について、以下の４点が挙げられた。

ア.　JA グループで働く職員として、協同組合理念を常に意識できる人材。

イ.　生産者と消費者を結ぶ懸け橋機能を発揮するために、高い倫理観や責任感を持ち積極的にチャレンジする精神と現状を変革できる人材。

ウ.　リーダーとして、事業の改革、事業機会の開発を率先して実践し、的確に判断できる人材。

エ.　自分の担当する業務に関して、農家・JA の状況を踏まえ、エキスパートとして深い知識や専門的な技術を持ち、先進的な仕事を遂行できる人材。

全農では、協同組合理念を意識することが筆頭に挙げられ、これを踏まえて積極的に行動する人材が求められていることが理解できた。

次に、人材育成の基本体系について説明があった。全農では「研修」「ＯＪＴ」「自己啓発」および「異動とジョブローテーション」の制度により体系を構成している。これらは「株式会社」の制度とあまり変わらないが、必須講座の「農協法」、あるいは「JA 研修」「全中・県中主催研修」があるなど、全農ならではの内容が多く含まれていた。

さらに、全農においてとくに重視されている「能力開発目標面談」と人材育成の基本体系との関係について説明があり、目標による管理がしっかり行われる中で職員が育ち、組合も発展していくということが理解できた。

このように、全農という農協の中央組織の特性が人材像や人材育成の体系の中に埋め込まれていることが示された。竹之内氏は、人事部勤務の経歴を持ち企業の面接官の経験もあることから、今年の就活生に対しても、面接のノウハウなど士就職活動において重要なことを教えて頂き、３年生は特に真剣な表情で講演を聞いていた。

５．講演会の内容（２）東京インターカレッジコープ　白石氏

次に講演いただいたのは東京インターカレッジコープの白石氏（「生協の白石さん」）である。同氏からは、東京インターカレッジコープの意義と、同組合で展開されている「大学生の学びと成長」プログラム、さらに組合員とのふれ合いの中で職員がどう成長していくかという内容で講演いただいた。まず、インターカレッジコープは、「生協のない学園に通う学生・院生・教職員のための大学生協」である。都内だけでも 130 以上の学校には、残念ながら生協がない。「自分の学校にも生協がほしい！」そうした声が大学生協に多数寄せられている。こうした要望にこたえるため、1993 年生協のない学園(大学・専門学校)に通う学生・院生・教職員のための大学生協として、東京インターカレッジコープが誕生した、というお話があった。

次に、東京インターカレッジコープの「大学生の学びと成長」プログラムについてのお話があった。大学生協はもともと、組合員である学生・教職員に学びの場や機会を提供することを重視した場である。そして次第に、学生を対象としたキャリア形成支援という事業が展開されるようになり、現在では事業の重要な柱となっている。全国大学生活協同組合連合会「大学生協の４つの使命」の中に「学生の成長を育み、キャリア形成を支援する事業」の展開がうたわれている。そこで、拓殖大学のような「生協のない大学」をサポートしてくれている東京インターカレッジコープは、キャリア形成支援事業として「大学生の学びと成長」プログラムを行っている。この事業は、１年生～４年生まで、その立場に合った「学びと成長」をサポートするものである。学生の皆さんができるだけ早期に具体的な夢を持ち、楽しく、充実した学生生活を過ごすために、「学びと成長」プログラムでサポートする、ということである。このプロジェクトのコンセプトは“早期からＰＤＣＡサイクルを実践し、社会への準備を始めよう”であり、社会人になるために必要な力をつけようとするものである。大学生協の「学びと成長」をはじめと

するいろいろなプログラムは、これまでの「モノ」の提案に加えた「コト」の提案である。学生が「コト」に取り組むことによって、目的を達成する結果を得ることに加え、達成するまでの過程で成長することが、大学生協の願いということであった。

最後に、白石氏がこれまでいくつかの大学生協の職員として、学生とのふれあいを通じてどのように成長してきたかについてお話があった。大学生協の職員は、学生から寄せられる多様な声を受け止め、コミュニケーションを繰り返すことを通じて成長していく。無理かな、と思った要望でも、できる限り応えていく。応えられない場合でも、誠実に対応する。一見生協とは関係ないような声にも、きちんと答えていく。それが職員の成長につながっていくという。白石氏は、ご自分の学生とのウイットに富んだやり取りを紹介され、その中で生協としての取り組みをアピールし、学生の学びと成長につながるようなアドバイスも行っていることを話してくださった（一部は参考文献(4)に挙げられている）。白石氏と学生のユニークなやり取りの紹介に、会場は笑いに包まれていた。

６．講演会を終えて

こうして、２時間におよぶ講演会を大盛況のうちに終えることができた。石毛ゼミの学生はもちろん、聴講した拓殖大学生や学外の方にも、協同組合の意義や、協同組合が組合員（である顧客）と職員の両方の人材育成に深くかかわっていることを理解いただけたと思っている。アンケートにも、協同組合の活動の多様さへの驚きを示したものが多くあった。自分の就職先としての協同組合の魅力を一層感じた学生も多くいたようであった。

講演会は好評であったが、石毛ゼミ生の中にはまだ、協同組合を身近な存在として実感しきれないという思いが残った。やはり学内に生協がなく、学校周辺にも協同組合の店舗がないことなどがその原因ではないかと思われた。ゼミ内で議論を重ね、拓殖大学出身で協同組合（ないし協同組織形態をとる企業）に就職した若い先輩の話を聞くことによって、協同組合をより身近に感じることができるのではないかという結論に達した。

そこで、拓殖大学就職部の就職体験記から大学生協に就職した方を探し、東京インターカレッジコープおよびその生協（東工大生協）の専務経由で紹介いただき、講演をお願いした。また協同組合・協同組織が強い存在感をもつ金融業界からのお話も聞きたいということで、拓殖大学出身の職員を多く輩出している朝日信用金庫にお願いし、同金庫の若手職員（拓殖大学出身）を紹介いただき、講演をお願いした。今回は、アットホームな雰囲気の中でじっくりお話を伺いたいということで、ゼミ内に限定しての講演会とした。

年度が変わり、石毛ゼミにも新しいメンバー（新３年生）が入ってきた。このため、改めて協同組合についての学習会を行い、予備知識を得ることとした。そのうえで、前年の講演会同様、東工大生協には石毛ゼミのメンバーが、朝日信用金庫にはゼミ担当教員が伺い、講演会の主旨をお伝えしたうえで講演内容についての打ち合わせを行った。今回はキャンパス内の生協の見学もでき、大学生協のよさを感じたゼミメンバーも多かった。

講演会は 2013 年 6 月 22 日に行われることとなっている（本稿執筆時点＝2013 年 6 月 10 日の予定）。この内容とそこから学んだことについては、報告の中で紹介する予定である。

７．おわりに

今まで決して身近とはいえなかった協同組合について学ぶことにより、石毛ゼミでは協同組合の存在意義や必要性が少しずつ理解できているように思われる。例えば、店と客の間で単に売り買いするのとは異なり、出資し、参加し、互いに学び合うという関係ができているのは協同組合の大きな意義であること、人材育成という観点からは、協同組合の活動を通して、組合員（出資者にして顧客でもある）も、職員も学び、成長していくことができる、そしてそれが協同組合の理念にもかなっていること　などである。石毛ゼミでは、こういった学習を通じて、次第に協同組合が身近に感じられるようになっている。東京インターカレッジコープの理事や監事に就任したゼミ生や、農協や信用金庫を就職先として選ぶゼミ生も出てきている。これからも協同組合についての学びを続けていきたいと思っている。

参考文献

(1)　2012 国際協同組合年（IYC）全国実行委員会“2012 国際協同組合年ってなに？”（2012）.
(2)　2012 国際協同組合年東京都実行委員会“協同組合がよりよい世界を築きます”（2012）.
(3)　JA グループ家の光協会“まんがで読む　協同組合の先人たち”（2012）.
(4)　白石昌則：“生協の白石さん　学びと成長”，ポプラ社（2012）.

図１　講演会の掲示・チラシ

～ 講演会「協同組合と人材育成」～

1. 目 的

本年 2012 年は国連の定めた「国際協同組合年」になります。協同組合は、同じ思いを持つ人々が公平に出資し、民主的に管理していく事業体であるとともに、組合員や役職員に対して教育を行うことを重視している組織です。

拓殖大学の石毛ゼミナールでは、企業をはじめとする事業体における「ひとの活用」「ひとの成長」をテーマとして学習を積み重ねてきています。そこで、本年の国際協同組合年に鑑み、協同組合における「ひとの成長」、すなわち人材育成のための諸活動はどのようなものかを学ぶ機会として、この活動に従事してきた方のお話をお聞きすることとしました。そしてこれをより多くの方に聞いていただくことにより、協同組合における人材育成活動についての理解を広く共有できる機会にしたいです。

2. 概 要

(1)日 時　2012 年 12 月 4 日(火)午後 4 時 10 分～6 時
(2)場 所　拓殖大学文京キャンパス C404 教室
(3)テーマ　講演会「協同組合と人材育成」(国際協同組合年記念)
(4)主 催　拓殖大学石毛昭範ゼミナール
(5)後 援　拓殖大学商学部就職委員会
　　東京インターカレッジコープ、日本キャリアデザイン学会
(6)対象者　学生・教職員・一般
(7)内 容
　　・開会挨拶　拓殖大学 石毛ゼミナール学生
　　・講 演　全国農業協同組合連合会 燃料部ガス課課長 「竹之内 啓」氏
　　東京インターカレッジコープ 店長 「白石 昌則」氏
　　・閉会挨拶　拓殖大学商学部准教授 石毛 昭範

3. 講演内容

協同組合における人材育成は、大きく分けて「役職員」に対するものと、「組合員」に対するものに分けることができます。前者は、一般の企業でも見られるいわゆる教育訓練の活動です。後者には、組合員同士で行う学習活動や、協同組合が事業として行う教育の活動があります。本講演会では、前者の例として農協における活動を、後者の例として大学生協における例を紹介いただき、その意義や課題などについて考えたいと思います。